

『十字架の陰陽師』設定用 賀茂在昌関連年譜

※太字が架空設定 年齢は数え年

◇勘解由小路（賀茂）在富 在昌父

延徳2年（1490） 2月 勘解由小路在富生

-永正5年（1508） 大内義興上洛

永正11年（1512） 23歳 任曆博士

結婚、室・清原宣賢（1475-1550・父吉田兼俱）娘・木根子（1495-1559）

永正9年（1515） 25歳 陰陽頭兼任

-永正15年（1518） 8月 1508より在京の大内義興、周防山口に帰国

永正17年（1520） 31歳 **息子金龍丸生（1536天文法華の乱で没）**

大永4年（1524） 35歳 **娘日枝子生（1542土御門有春継室）**

-万里小路秀房（1492-1563）娘・貞子15歳、大内義隆（1507-1551）18歳正室として山口下向

大永7年（1527） 38歳 **娘阿多子生（1545山科言継継室）**

-享祿元年（1528） 12月 大内義興没、義隆22歳家督相続

天文5年（1536） 47歳 叙従二位

7月・天文法華の乱 **在富邸罹災 子女、日枝子12歳・阿多子9歳**

在富、大内義隆32歳（1507-1551）を頼り山口下向 **妻の弟・吉田兼右（1516-1573・21歳）、および広橋兼秀31歳（1506-1567）と娘・光子14歳も同行（広徳院喝食）**

天文7年（1538） 在富49歳 持明院基規47歳（1492-1551・前年周防下向）とともに帰洛

◇勘解由小路（賀茂）在昌

天文8年（1539） 1月 山口に生 **幼名宇治丸** 今八幡宮に預けられる

（慶長4年（1599）81歳にて没との記録だが、**61歳の誤り**という設定。以後年齢はそれに基づく）

母・正四位上大宮伊治（1496-1551）娘・佐井子/おさい 20歳（1520・正室上臈・のち大内義隆継室）

大内義隆**非嫡出女・広（1539-1604・のち在昌正室）**、山口に生 **高嶺太神宮禰宜預かり**

母・広橋兼秀娘・光子17歳（1523・1536山口下向・広徳院理光）

在富弟賀茂在康息・在種（1521-1551）**19歳**・在富養子・従五位下

（史書には21歳没の記録があるが、**31歳没の誤り**との説を採る）

-天文11年（1542） 1月 大内義隆、出雲の尼子氏へ遠征、翌年2月大敗帰還

-天文14年（1545） 大内義隆39歳室・おさい（大宮佐井子26歳）、嫡子亀童丸（義尊・1551）出産

正室万里小路貞子、離縁して帰洛 旧邸・東の御殿におさい住む

天文15年（1546） **8歳** **外祖父・左大史算博士大宮伊治51歳**山口下向、**宇治丸・広の養父**となる

養父に算学、今八幡宮および高嶺神明宮にて吉田神道を学ぶ

-天文18年（1549） 6月 細川晴元・將軍足利義藤（後義輝）、三好長慶の謀反により近江坂本に敗走

天文19年（1550） **12歳** 11月 フランシスコ・ザビエル（1506-1552）一行山口到来、大内義隆に引見

天文20年（1551） **13歳** 在富62歳 叙正二位

-1月 ザビエル一行上洛、山口を経て3月平戸帰還

3月7,14日 伊勢貞孝邸に会見中の三好長慶に対し、將軍方進士賢光による暗殺未遂事件

3月14日 在種**31歳**、養父在富により横死 **上記の事件に携わったことが原因**

-3月15日 將軍方の三好政勝と香西元成が三好長慶本拠地丹波宇津に侵入

-4月 ザビエル一行山口再訪、許可を得て布教 **ロレンソ了齋（1526-1592）入信**

-8月 ザビエル豊後府内に行き、大名大友宗麟（義鎮）より布教許可を得る
 同月 28日～9月 1日 陶隆房・内藤興盛の乱、大内義隆・大宮伊治ら戦死
 コスメ・デ・トーレス司祭（1506-1552）の助けにより豊後府内に逃れる。広受洗・洗礼名カタリナ
 広共々堺を経て上洛、嗣子認知を得られず、山科言継 43歳（1507-1579）邸に寓居
 天文 22年（1553） 9月 在富室木根子 59歳、山科言継 45歳三男鶴松丸 7歳を相続に要請
 母・在富娘阿多子（1527-・1545 19歳 言継側室） 後、橘朝臣氏薄以緒養子・薄諸光（1547-1585）
 天文 23年（1554） 16歳 嗣子と認められ元服 在昌と号
 結婚、室・大内義隆遺児・広（カタリナ） 16歳
 弘治元年（1555） 17歳 長男宇佐丸（メルシオル）生
 -弘治 3年（1557） 3月 大内義長毛利軍侵攻により敗死、山口大内氏滅亡
 永祿元年（1558） 20歳 長女すえ（陶子）生
 -11月・將軍足利義輝帰洛
 永祿 2年（1559） 21歳・在富 69歳
 11月-12月 ガスパル・ヴィレラ司祭（1525-1572）一行上洛、四条坊門室町西入に仮南蛮寺を設ける
 12/8（ユリウス暦 12/24）在昌受洗 洗礼名マノエル（エマヌエル）
 永祿 4年（1561） 23歳 次女かな（可奈子）生（後、土御門久脩室）
 -永祿 6年（1563） ロレンソ了齋イエズス会に正式入会、修道助祭（イルマン）となる
 永祿 7年（1564） 26歳・在富 74歳 ロレンソ了齋に同行し豊後に向け出発
 次女可奈子 4歳は山科言継（58歳）邸預かり
 12月 伊予堀江でルイス・フロイス（1532-1597）らと出会い、妻を施療される
 次男戒丸（在信）生 洗礼名フィデル（フィデリス）
 永祿 8年（1565） 27歳 1月 長男、数え 11歳にして受洗、洗礼名メルシオル（メルキオル）
 -6月 足利義輝二条武衛陣にて戦死 ヴィレラー一行京追放、堺に逃れる
 8月 父在富 76歳没（勘解由小路正二位賀茂朝臣在富卿）
 土御門有春（1501-1569）四男の福寿丸（1553-1575・13歳）、在高として勘解由小路家相続
 母・在富娘日枝子（1524-・1542 19歳 有春継室）
 -永祿 9年（1566） ルイス・デ・アルメイダ（1525-1583）天草志岐に教会を建てる
 永祿 11年（1568） 30歳 豊後の府内教会に滞在 三女鞠（マリア・1568-1635）生
 -元龜元年（1570） 6月 フランシスコ・カブラル（1529-1609）天草に到着 適応主義否定
 9月 コスメ・デ・トーレス天草志岐で帰天
 -元龜 4年（1573） 土御門有脩（1527-1577）息・土御門久脩（1560-1625・14歳）叙従五位下陰陽頭
 7月 足利義昭追放、備後に逃れる 天正に改元
 天正 3年（1575） 在高没（23歳）
 久脩 16歳、在綱として勘解由小路家相続、室・在昌次女可奈子（1561-） 従五位上左馬助
 -天正 4年（1576） オルガンティーノ司祭（1533-1609）上洛、四条坊門室町西入に南蛮寺建立
 天正 5年（1577） 38歳 1月 土御門有脩没 3月 久脩 18歳・土御門復姓
 7月 在昌帰洛、従五位下陰陽頭叙任（長男メルシオル 23歳と三女鞠 10歳は豊後府内に残る）
 10月 叙従五位上
 -11月 織田信長任右大臣
 -天正 7年（1579） 山科言継没
 天正 8年（1580） 長男メルシオル 26歳、イルマン（修道助祭）となる
 -スペイン・ポルトガル合邦
 -天正 9年（1581） ガスパル・コエリョ司祭（1530-1590）日本準管区長に就任

天正 10 年 (1582) **43 歳** 6 月 本能寺の変 幸徳井友忠 (1531-1601) を頼り奈良に下向
 -9 月 19 日 (1582 年 10 月 15 日)・グレゴリオ暦施行
 -天正 11 年 (1583) ペドロ・ゴメス司祭 (1535-1600) グレゴリオ暦を携えて来日、豊後府内にて講義
 -天正 13 年 (1585) メルシヨル 31 歳、イエズス会退会、3-4 ヶ月後天草で暗殺
三女鞠 17 歳、修道女となる
 -3 月 秀吉関白宣下、賜豊臣姓
 -天正 14 年 (1586) 7 月 秀吉九州征伐 (翌年 4 月まで) 12 月 島津方により豊後府内・丹生島大破
 天正 15 年 (1587) 6 月 伴天連追放令、京都南蛮寺・長崎公館棄却 9 月 秀吉聚楽第建立
 ペドロ・ゴメス豊後より天草に逃れ開講 **三女鞠 19 歳師事**
 -9 月 聚楽第落成
 天正 18 年 (1590) **52 歳** 4 月 方広寺大仏殿地鎮祭執行 **叙正四位下**
 6 月 天正遣欧使節団長崎帰国、11 月-翌 2 月上洛 **三女鞠 23 歳、同行し上洛**
 -天正 19 年 (1591) 山科言経名誉回復
 -天正 20 年 (1592) 4 月 文禄の役 12 月改元
 -文禄 4 年 (1595) 7 月 豊臣秀次廃嫡切腹 土御門久脩配流
 -慶長 2 年 (1597) 2 月 長崎切支丹迫害 7 月 慶長の役
 -慶長 3 年 (1598) 9 月 秀吉没
 慶長 4 年 (1599) 3 月 **病に伏す**。山科言経 (言継獅子) の上奏により叙従三位
 8 月 **61 歳**にて没
 真言宗智山派六波羅蜜寺にて**荼毘** **墓所**: 堺の同門・密乗山念仏寺 (開口神社別当寺)
常在院萬円天昌居士

◇勘解由小路 (賀茂) 在信 賀茂在昌次男・嗣子

永禄 7 年 12 月朔日 (1565.1.3) 伊予堀江にて生 幼名戎丸、洗礼名フィデル (フィデリス)
 豊後府内に育つ
 天正 5 年 (1577) 13 歳 **上洛、元服**
 天正 10 年 (1582) 18 歳 本能寺の変 **奈良に下向**
 柳生石舟斎宗厳 (1527-1606) 娘**勝子 (1565-)**・幸徳井友忠姉姪・母幸徳井友栄 (1487-1558 娘) と通じ、
翌年長男吉備丸 (1583-1645・後幸徳井友景) 生
勝子・柳生家臣安井永順正妻となり、吉備丸は幸徳井友忠 (1541-1601) 52 歳養育
 -天正 13 年 (1585) 秀吉関白宣下、翌年豊臣姓下賜
 天正 16 年 (1588) 24 歳 **堺在住の修験行者・小倉浄因の姪・檜乃 (1571-)** と結婚
 天正 18 年 (1590) 26 歳 方広寺大仏殿地鎮祭に際して父と共に**出仕、叙従五位下**
 天正 19 年 (1591) 27 歳 3 月 フロイス、ヴァリニャーノ、伊東マンショ (1569-1612) らと共に**天草下向、ペドロ・ゴメスに師事**
 天正 20 年 (1592) 28 歳 **1 月 嗣子貴船丸 (在季) 生** 4 月・文禄の役 12 月改元
 -文禄 2 年 (1593) ペドロ・ゴメス『天球論』著
 文禄 4 年 (1595) 31 歳 **9 月 帰洛 正五位下大蔵大輔暦博士叙任**
 文禄 5 年 (1596) 閏 7 月 正五位下行大蔵大輔博士賀茂在昌として書簡
 -閏 7 月 伊予-豊後-伏見地震 10 月改元
 慶長 3 年 (1598) 34 歳 3 月 史書に在信初出
 -9 月・秀吉没 ゴメス長崎で開講

慶長4年(1599) 35歳 父在昌没 母・広、堺に下る

慶長5年(1600) 36歳 3月 叙正五位上

-幸徳井友豊(1566-1602) 叙従四位下行陰陽頭

-9月 関ヶ原の戦い 11月 土御門久脩一時上洛、翌年帰洛

慶長9年(1604) 40歳 母・広 66歳堺にて没 堺に下る

-洛中天主堂再建

慶長10年(1605) 41歳 堺在住(「勘解由小路修理大夫在信」)

慶長15年(1610) 45歳 方広寺大仏殿再興地鎮祭齋行(賀茂在昌と号)(ここまで史書にあり)

-慶長16年(1611) 幸徳井友景 19歳・叙従五位下

慶長18年(1613) 46歳 イギリス商船クローブ号平戸来航 ジョン・セーリス提督、8月堺に立寄

妹鞠(43歳) これに同乗、ロンドン到着、のちにアイルランドで生涯を全う

慶長19年(1614) 50歳 大阪冬の陣、切支丹禁止令(翌年夏の陣にて堺全焼)

妻子を伴い因幡に落ち、若桜宿に移住 松神大明神(若桜神社) 神主、通称和賀佐茂信

-元和4年(1618) 幸徳井友景 35歳・任陰陽頭

寛永15年(1638) **75歳にて没**

同年島原の乱終結